

平成21年度病虫害発生予報第4号の発表について

向こう1か月の主要な病虫害の発生動向についての発生予察情報及び病虫害防除に関する栽培管理について解説します。

病虫害防除の主な留意点

- ・ 向こう1か月の天気は、北日本では、数日の周期で変わると予報されています。寒気の影響により気温が低くなる時期がある見込みです。東日本と西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予報されています。
- ・ 梅雨時期を迎えた地域では病虫害の発生しやすい環境になります。病虫害防除に当たっては、天候の状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って、適切な防除を行ってください。
- ・ なお、薬剤による防除を実施する場合には、病虫害が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。

用語の解説

1. 【発生量（程度）】

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側10%の度数の入る幅
（平年値は過去10年間の平均）

2. 【地域】

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北東北：青森県、岩手県、秋田県
南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北関東：茨城県、栃木県、群馬県
南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

稲

- ・ **葉いもち**の発生は、北海道、北東北及び北関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病の発生に好適な条件は、降雨や露により稲体上に付着した水滴が10時間以上、平均気温15～25℃で保持され、さらに前5日間の平均気温が20～25℃の時であり、好条件下では急速に蔓延します。葉いもちの病斑は、感染から5～10日後に出現するので、都道府県病害虫防除所から発表される感染好適日を参考に本田の見回りを実施し、早期発見に努めるとともに、発生を認めた場合は、薬剤防除を実施してください。なお、いもち病菌は一部の薬剤に対する耐性菌が認められているので、都道府県から発表されている情報を参考に薬剤を選択してください。
- ・ 早期水稲における**穂いもち**の発生は、「平年並み」又は「やや少い」と予想されますが、出穂前後に降雨が続くと発生が助長されます。上位葉に葉いもちの病斑がみられる場合は穂いもちの発生が懸念されるので、穂ばらみ期及び穂揃期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **紋枯病**の発生は、梅雨明け後に高温・多湿が続くと発生が助長されます。また、前年に発病が多い場合は、本病が多発する可能性があるため注意が必要です。本病は病勢が少しずつ進展することから、発生がある程度認められてからでも薬剤防除を行うことが可能です。穂ばらみ期から出穂期に発生を認めた場合は、発生状況に注意して適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **縞葉枯病**は、東海、近畿及び中国の一部地域で「多い」、北関東及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。また、本病の病原ウイルスを媒介する**ヒメトビウンカ**の発生は、中国の一部地域で「多い」、南関東及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されており、本害虫の縞葉枯病ウイルス保毒虫率が高い値になっている地域があります。病葉を吸汁したヒメトビウンカはウイルスを永続的に伝搬するので、ヒメトビウンカの防除が本病の防除につながります。普通期水稲でヒメトビウンカの発生を本田で確認した場合は、早期に適切な防除を行ってください。
- ・ 海外飛来性害虫については、6月後半に九州において**セジロウンカ**及び**トビイロウンカ**のまとまった飛来が確認されています。ウンカ類は早期防除が大切です。本田の見回り際には、稲の株元を注意深く観察し、株元に褐色の点またはすじ状の傷（産卵痕）が目立ち、成虫及び幼虫の発生が見られる場合は、都道府県病害虫防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。

- ・ 早期水稲における**斑点米カメムシ類**の発生は、九州の一部地域で「多い」、東海及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。本害虫の防除は、休耕田、畦畔及び水田周辺の雑草管理が基本であり、出穂期の10日前までに本田周辺の草刈りを終了させてください。出穂期直前の草刈りは、本害虫の本田への飛び込みを助長し、被害を増加させるおそれがあるので、避けてください。薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回実施が標準的です。薬剤防除時期は斑点米カメムシ類の種類構成が地域によって異なるので、都道府県病虫害防除所から発表される発生予察情報で防除適期を確認し、薬剤防除を実施してください。

麦

- ・ **赤かび病**は、北海道で「やや多い」と予想されます。本病の発生状況に応じて追加の薬剤防除を実施してください。また、収穫は適期に確実にを行い、赤かび病菌の増殖を防止するため、収穫した麦は可能な限り速やかに乾燥してください。

果樹

(果樹共通)

- ・ **果樹カメムシ類**の発生は、北東北、南関東、北陸、東海及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。例年、カメムシ類の被害が多い園地や山林に隣接した園地では、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合には適切に防除を実施してください。

(かんきつ)

- ・ **かいよう病**の発生は、「平年並み」又は「やや少ない」と予想されますが、本病は連続した降雨により発生が助長されるので、天候の推移に注意し、薬剤防除を実施してください。特に、強風による擦れなどの傷口から容易に感染するため、風雨が強まることが予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。
- ・ **そうか病**の発生は、「平年並み」又は「やや少ない」と予想されているが、本病は多雨、多湿条件で発生が助長されるので、天候の推移に注意し、薬剤防除を実施してください。
- ・ **黒点病**の発生は、東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病の伝染源である枯れ枝を除去して、確実に園外で処分してください。本病は梅雨期と秋雨期の多雨期が主要な感染時期となるので、降雨の合間を見て薬剤防除を実施してください。
- ・ **ハダニ類**の発生は、近畿の一部地域で「多い」又は「やや多い」、中国、四国及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。本害虫は、降雨が少なく、気温が高くなると多発することが懸念されるので、発生初期での薬剤防除を徹底してください。

(りんご)

- ・ **斑点落葉病**の発生は、「平年並み」と予想されますが、本病は降雨が続くと発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **シンクイムシ類**の発生は、北海道及び北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。園内観察を行い、発生に応じて薬剤防除を実施してください。
- ・ **ハダニ類**の発生は、北東北の一部地域で「やや多い」と予想されます。本害虫は、降雨が少なく、気温が高くなると多発することが懸念されるので、発生初期での薬剤防除を徹底してください。

(なし)

- ・ **黒斑病**の発生は、「平年並み」又は「やや少ない」と予想されますが、降雨日数が多いと本病の発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **黒星病**の発生は、北関東の一部地域で「多い」、東北、南関東、東海、近畿、中国及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。昨年多発した地域では罹病葉、罹病果及び罹病した新梢の除去に努めてください。降雨が続くと感染が拡大するので、散布間隔が開き過ぎないように降雨の合間を見て薬剤防除を実施してください。
- ・ **シンクイムシ類**は、関東の一部地域で「多い」と予想されています。園内観察を行い、発生に応じて薬剤防除を実施してください。

(もも)

- ・ **せん孔細菌病**の発生は、「平年並み」と予想されますが、本病は葉や果実の気孔や傷口から感染するため、降雨や強風により発生が助長されます。天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **シンクイムシ類**の発生は、東海の一部地域で「多い」、中国及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されています。園内観察を行い、発生に応じて薬剤防除を実施してください。

(ぶどう)

- ・ **べと病**の発生は、中国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病は気温が低めで降雨が多いと発生が助長されます。天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

(かき)

- ・ **カキノヘタムシガ**は、「平年並み」と予想されますが、園内観察を行い、発生に応じて薬剤防除を実施してください。

茶

- ・ **チャノコカクモンハマキ**の発生は、東海の一部地域で「多い」、南関東及び近畿の一部地域で「やや多い」、**チャハマキ**の発生は、東海の一部地域で「多い」、南関東及び近畿の一部地域で「やや多い」、と予想されます。これらの害虫は、地域の予察灯やフェロモントラップの誘殺状況を参考に、成虫発生最盛日の7～10日後を目安に薬剤防除を実施してください。

- ・クワシロカイガラムシの発生は、近畿の一部地域で「多い」、東海及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。本害虫の防除は適期を外すと防除効果が劣るだけでなく、天敵への悪影響も懸念されます。ほ場毎に幼虫のふ化状況を観察し、防除適期である幼虫のふ化最盛期に薬剤防除を実施してください。
- ・チャノミドリヒメヨコバイの発生は、東海の一部地域で「多い」、九州の一部地域で「やや多い」、チャノキイロアザミウマの発生は、南関東の一部地域で「多い」、東海、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。また、チャノホソガの発生は、南関東の一部地域で「多い」、東海、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。これらの新芽加害性害虫は、夏期に連続的に発生します。新芽の生育状況と害虫の発生状況をよく見極め、同一系統の薬剤の連続使用を避けた上、適切な薬剤防除を実施してください。
- ・カンザワハダニの発生は、東海、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。特に多発が予想される園地では、早めの防除を心掛けてください。

野菜

(施設栽培・雨よけ栽培)

- ・梅雨期は、曇りや雨の日が多く、湿度が上昇して病害の発生しやすい条件となります。うどんこ病については、湿度に関係なく感染が起これば発生するので、発生初期の防除を徹底してください。また、施設周辺に排水路を整備して雨水が施設内に入らないように留意し、作物の株間の通風を図る等、多湿にならないように施設を管理してください。さらに、病害の伝染源となる罹病葉や罹病果は施設外に除去し、土中に埋める等、確実に処分してください。
- ・まもなく栽培終期を迎える施設作物では、施設内でウイルスを保毒したアザミウマ類やコナジラミ類が周辺ほ場へ分散することを防止するため、栽培終了後は抜根・切断と同時に施設を密閉して蒸し込み処理を行い、施設内の生存虫を死滅させてから作物残渣などを搬出してください。

(露地栽培)

- ・天候が日照不足・低温傾向になると、果菜類の疫病、灰色かび病、べと病が発生しやすい条件となります。ほ場観察を行い早期発見に努め、発生を認めた場合は薬剤防除を実施してください。

今後の発生量が多い・やや多いと予想される病害虫及び対象地域

作物名／病害虫名	発生が多い地域	発生がやや多い地域
トマト		
灰色かび病		南東北
アブラムシ類		近畿
アザミウマ類		北東北、南関東
コナジラミ類	北関東	九州
ナス		

うどんこ病		北関東、近畿
アブラムシ類		近畿
アザミウマ類	九州	関東
ハダニ類		南関東、四国
きゅうり		
うどんこ病		東北、南関東、北陸、近畿
べと病		南関東
アザミウマ類	北関東	南関東
アブラムシ類		北東北、甲信、北陸、近畿、四国
ハダニ類		北東北
すいか		
アザミウマ類	南関東	
アブラムシ類		北東北、南関東、甲信、北陸、近畿
ハダニ類	南関東	北東北
キャベツ		
アブラムシ類		南関東、甲信
コナガ	南東北	北海道、北東北、甲信
いちご		
ハダニ類	北関東、南九州	北九州
ねぎ		
さび病	北陸	南関東
アザミウマ類	南関東、北陸、近畿	北九州

花き

(きく)

- ・ **白さび病**の発生は、北陸の一部地域で「多い」、南東北、北関東及び東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病は発病後の防除は困難なため、発生状況に注意して適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **アブラムシ類**の発生は、東北、北陸及び近畿の一部地域で「やや多い」と予想されます。ほ場観察を行い、これら病害虫の早期発見に努め、発生を認めた場合は、発生初期での防除を徹底してください。
- ・ **アザミウマ類**の発生は、南東北、南関東、甲信、中国及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。ほ場観察を行い、これら病害虫の早期発見に努め、発生を認めた場合は、発生初期での防除を徹底してください。

(6 / 8)

その他

前回発表（平成 21 年 6 月 11 日）以降、各都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は下記のとおりです。

警報

発表月日	都道府県名	作物名	病害虫名
発表なし			

注意報

発表月日	都道府県名	作物名	病害虫名
6 月 15 日	鳥取県	ねぎ	べと病
6 月 16 日	北海道	ばれいしょ	えき病
6 月 17 日	青森県	イネ科牧草、小麦、とうもろこし、水稲等のイネ科作物	アワヨトウ
6 月 23 日	青森県	ぶどう	灰色かび病
6 月 24 日	奈良県	かんきつ類	ミカンハダニ
6 月 24 日	熊本県	早期水稲	斑点米カメムシ類
6 月 24 日	宮崎県	早期水稲	斑点米カメムシ類
6 月 26 日	大分県	果樹全般	果樹ハダニ類
6 月 26 日	大分県	早期水稲	斑点米カメムシ類
6 月 29 日	静岡県	茶	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ
6 月 29 日	茨城県	なし	黒星病
6 月 30 日	鹿児島県	いちご	うどんこ病
7 月 2 日	北海道	イネ科作物	アワヨトウ
7 月 2 日	北海道	たまねぎ	ネギアザミウマ

特殊報

発表月日	都道府県名	作物名	病害虫名
6 月 12 日	鹿児島県	ソリダゴ	ソリダゴ根頭がんしゅ病
6 月 18 日	愛知県	きく	キク茎えそ病
6 月 30 日	高知県	トマト	トマト萎凋レース 3

＜平成 21 年度の病害虫発生予報の発表日＞

- 第1号： 4月23日（木曜日）・・・発表済み
第2号： 5月14日（木曜日）・・・発表済み
第3号： 6月11日（木曜日）・・・発表済み
第4号： 7月9日（木曜日）・・・今回発表
第5号： 7月23日（木曜日）
第6号： 8月6日（木曜日）
第7号： 9月10日（木曜日）
第8号： 10月23日（木曜日）
第9号： 11月12日（木曜日）
第10号： 2月18日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班 大岡、金武

代表：03-3502-8111（内線4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>